

「ものづくり」から「まちづくり」の現場へ

東京大学大学院 新領域創成科学研究科 准教授

せいけ つよし
清家 剛さん



UDCKにて

Profile

1987年東京大学工学部建築学科卒業，1989年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了，博士（工学）。1991年東京大学工学部建築学科・助手，1999年より現職。建築生産と環境について考える立場から，改修・解体技術やリサイクル技術についてや環境評価システムなどを研究している。また，柏市や福島県田村市などをフィールドに，まちづくりの研究および活動を行っている。著書に「東京の環境を考える」（共著，朝倉書店，2002），「サステイナブルハウジング」（監修・共著，2003，東洋経済新報社）など。

ものづくりに興味があり，建築学科に進学した。卒論は都市や建築の設計の研究室だったが，修士以降建築を造る生産の研究を中心に行ってきた。1999年に東京大学の新しい大学院，新領域創成科学研究科が発足し，その中で環境学の教員となることになった。そこでは，建築の環境影響評価や解体，リサイクルの研究を始めた。いずれもものづくりから発展させたテーマであった。

環境学では，広い視野で都市を捉えるため，建築デザイン，景観デザイン，自然環境，水環境，人々の営みといった，異なる分野の専門家が集まっている。私も，建築から都市へと視点を広げる中で，物的な都市だけでなく，人々の活動にも興味が広がっていった。2009年12月に都市デザインを専門とする同僚の北沢猛教授が亡くなり，さらに一歩踏み出して，まちづくりに関わるようになった。北沢教授は3つのまちづくりの拠点をつくられており，それぞれのセンター長または副センター長の立場で活動を引き継ぐことになったのである。その3つとは，我々新領域創成科学研究科のある柏キャンパス近くのエリアを考える柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK），福島県の田村市に設置している田村地域デザインセンター（UDCT），福島県郡山市の郡山アーバンデザインセンター（UDCKo）であり，地域の条件が異なるところながら，それぞれの「公民学」の協同によるまちづくりを標榜している。

たとえばUDCKでは，「公」は柏市，柏商工会議所，田中地域ふるさと協議会，「民」は三井不動産と首都

圏新都市鉄道，「学」は東京大学と千葉大学といった多彩な組織で，それぞれの強みを活かしながらまちづくりを考えている。もともとはハードの景観整備にある程度重点を起しているのだが，それ以上に人々の活動が活発になり，まちを賑やかにしつつある。

このような活動に関わると，痛切に感じるのが，ハードの設計の限界である。建築や都市空間の構築物のいわゆるハードは，ある想定のもとに設計されるが，人々の活動が活発になればなるほど，さまざまな使われ方をするようになり，また，活動との齟齬も出てくる。つまり，設計時の完璧な想定は不可能なのである。一方で，人々との活動も変化するのであり，現在と将来では求められるものは同じではない。そうすると，ハードとは，少しずつ修正・変更しながら運用するのが理想的だろうと思うようになった。そのためには，人々の活動をフィードバックして修正につなげるためのさまざまなデータが必要になる。しかし，都市の活動をはかるデータは少なく，そういう点で，共同研究を行っている「モバイル空間統計」のまちづくりへの活用に，可能性を感じている。

ものづくりには，いい物を完成させるというゴールがある。一方でまちづくりは，ゴールがなく，ずっと続けなければならない長丁場のものである。今後もそのような活動に関わりながら，何らかの貢献が少しずつでもできればと考えている。